

ゆったり のんびり ふらっと 福島城の 今むかし

コース2

でらんにふらっと

①レンガ通り(市道本町・上町線)

延長 280m のこの道路は、透水性レンガ舗装の広い歩道やスムーズに横断ができる平坦性を確保した横断歩道など、高齢者・障がい者に配慮した道路として平成 10 年 3 月末に竣工しました。両側の歩道には懐かしい路面電車・吾妻山の雪うさぎ・旧日銀福島支店などのパネルも設置されています。



路面電車



吾妻山の雪うさぎ



旧日銀福島支店

②県庁前公園

明治 9 年の明治天皇御巡幸の聖跡保存のため、昭和 5 年に建設された行在所碑があります。

碑の表面の文字は東郷平八郎元帥の揮毫を拡大して彫っています。

その横には、幕末から福島城下の上町に住み、店を構えて営業してきた斎藤忍山が明治 12 年に建てた、「早乙女にしかた望まむ 信夫摺 はせを」の句碑があります。

この句は、松尾芭蕉の「おくのほそ道」本文にある「早苗とる手もとや昔 しのぶ摺」という俳句の最初の作品とされています。



③河野広中の像

三春出身で自由民権運動の中心となり、明治 14 年に県議会議長となり、県令三島通庸と対立し、福島事件で逮捕されました。

後に国会に 14 回連続当選し、初代衆議院議長となりました。

銅像は県議会議場に向かって大きく手を広げています。



④福島城土塁

福島城で現存する唯一の土塁です。

県庁西庁舎南側にあり、福島城西門南土手にあたる阿武隈川まで延びていた南北方向の土塁の一部で、土塁の西側は空堀でした。



⑤大島要三郎の庭跡(北側から)

福島競馬場の生みの親と言われる大島要三郎の庭跡。要三は埼玉県(現加須市)生まれ、土木業から身を起こし、政界でも活躍した実業家です。信夫山に銅像が設置されています。



南側から見た庭跡

⑥密語橋

主老杉の伝説が伝わる密語橋は、現杉妻会館西側の外堀に架けられ、南から福島城に入る道筋にあたり、全長五間、幅二間の手摺付橋で、1843(天保末)年に土橋に替えられました。杉妻会館庭園内に縮小した石造りの密語橋が架けられています。



★板倉家御歴代略記付図より



縮小した石造りの密語橋

⑦御倉邸・おぐら茶屋



御倉邸

福島に日銀出張所ができたのは、明治 32 年、東北では初めてのこと。その日銀福島支店の支店長役宅として昭和 2 年に建築されました。木造平屋建て、寄棟、瓦葺きの建物で、和洋折衷の間もある戦前のお屋敷らしい佇まいです。

昇降機を備えた車イス専用入口もあり、車イスで建物内を見学できます。

阿武隈川を見下ろす庭園の一画には休憩のできる茶屋や旧米沢藩米蔵(復元)もあります。



おぐら茶屋

【入場無料】 開園 10 時～ 18 時 (休) 火曜日・年末年始

⑧本町地下歩道

平成 13 年 4 月に竣工した平和通り地下駐車場の付帯施設として、中心市街地の南北の連携を図り、人々が集い、憩い、交流できるよう整備されました。

そのため、通常の地下歩道よりも広い空間が確保され、内装や照明も工夫して明るい地下歩道となっています。

また、高齢者や障がい者の方々も含め、誰もが安全に安心して利用できるようエスカレーターやエレベーターも設置されています。

